

第 92 回紫友まち歩き

キタとミナミの大阪まち歩き

生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪 2019 (26, 27 日) に合わせて大阪のまち歩きが計画されました。

25 日 (金) は雨模様でしたが、26 日 (土) は曇り晴れで、大阪のキタとミナミの雰囲気の違いを肌で感じられました。計画では 20 か所以上の建物などの名前があっっていて、全部回れるか気になってのスタートでした。今回は広い大阪の南北あちこちを見学するため、地下鉄やタクシーも活用してのまち歩きです。最後の 27 日 (日) は、兵庫県の芦屋まで足を延ばしてのまち歩きです。案内人が、時間や疲れ状況などから見学先を選別して、当初の目的にあった大阪のまち歩きが実現できました。

3 日間の案内人と関連の説明者の皆さん、ありがとうございました。

日時： 2019 年 10 月 25 日(金) ～ 27 日 (日)

集合時間： 25 日 13 時

集合場所： JR 大阪駅桜橋口改札前

参加者： 7 名参加 (最多時)

案内人： 浅見 011

追加説明者： 柴田(い) 018 岡村 021

懇親会： 25 日 鯛よし百番 5 名

26 日 道頓堀たこ梅 7 名

歩いた歩数： 26 日 16,000 歩

■まち歩き行程

25 日：大阪駅桜橋口改札 → プレミストタワー → 大丸百貨店 → 生駒時計店 → 鯛よし百番 → スーパーホテル梅田

26 日：大同生命 → 府立中之島図書館 → 含水堂・華岡鹿城顕彰碑 → 大阪取引所・五代友厚像 → 新井ビル (旧報徳銀行大阪支店) → 緒方洪庵適塾 → 柴川ビルで昼食 → 慶沢園 → 通天閣 → 道頓堀 → 御堂筋の将来計画説明 → たこ梅 → スーパーホテル梅田

27 日：肥後橋 → 大阪駅 → 芦屋川駅 → ヨドコウ迎賓館 → 滴翠美術館 → 解散

<スタート>

10 月 25 日 (金) :

13 : 00 大阪駅の桜橋口改札に 4 名が集合。雨がまだ止んでいない。最初の目的であるプレミストタワーにタクシーで向かう。

① プレミストタワー :

靱公園 (うつぼこうえん) を少し過ぎたところでタクシーを降りる。まず、プレミストタワー大阪新町ローレルコートを公園から見上げる。新町演舞場跡地に建てられている。ビルの周囲には、総合設計制度による公開空地が設けられている。大阪のあちこちでこの制度が利用されているとの説明がありました。



駐車場は、ビルの中心部に設けられていてビルと一体化している立体駐車場。ちょうど住民が車を駐車しようとしていたので、仕掛けを見ることができた。



なお、このプレミストタワーはまち歩き仲間の設計事務所の設計によるマンションで、「大阪ランドスケープ賞奨励賞」受賞したという。

34 階のゲストハウスやビューラウンジを見学し、

そこから大阪湾や神戸方向を眺望する。



② 大丸百貨店

1名参加し、5名で心齋橋まで雨の中を歩いて行く。アールデコの装飾が残されているという。まず、大丸のシンボルである孔雀のレリーフを見る。大丸の創業は、1717年。



1階の天井にはアールデコ装飾が再現されている。改築により柱の間隔が変わったが、装飾は違和感の無いよう工夫がこらされている。

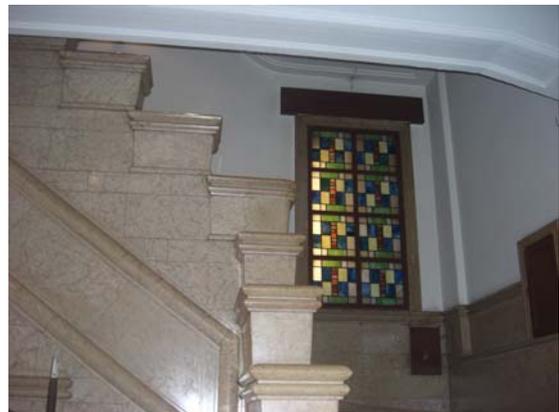


エレベーターホールは、イタリアの大理石を使った幾何模様で飾られている。古いものを残そうとしている。

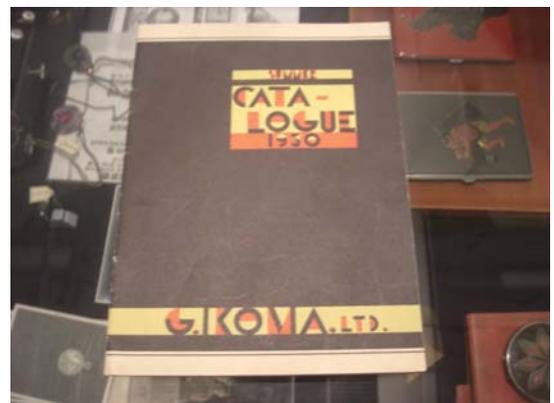
1名体調不良でホテルに戻る。

③ 生駒時計店

タクシーで堺筋にある昭和初期の鉄筋コンクリート造りの生駒時計店に向かう。ここで別の仲間が1名参加で、5名で生駒時計店の社長によるアールデコ調の生駒ビルディング案内と説明を楽しむ。



この社長も古いものを積極的に残すため、色々と工夫をしている。古い建物をコンシェルジュオフィスとって、小さな部屋貸しをしているという。地下室も案内してくれて、昔の商品や古いカタログなどを説明してくれた。



1930年に建てられ、5階には丁稚が寝泊まりする畳敷きの和室があったという。

④鯛よし百番

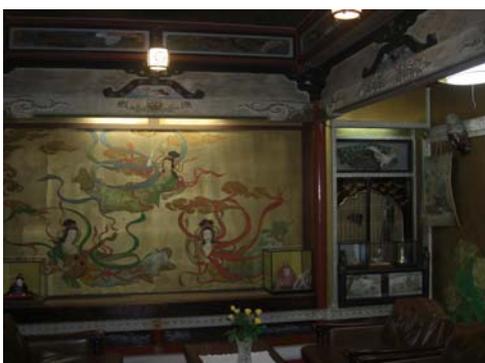
地下鉄で天王寺に行き、タクシーで飛田新地にある鯛よし百番に向かう。ホテルで休んでいる仲間にも連絡し、懇親会場前で待ち合わせる。

廓百番の遺構だという。遊郭を活かして料亭として活用している。案内や客対応は、アジア系の男性たちだけだった。



ビールでまず乾杯し、鍋物を楽しむ。鯛よしと鯛の名前が付いているが、今回、鯛は見つからなかった。どちらかといえば、肉が主体の鍋だった。

各自トイレついでに建物の探検に行く。中庭をロの字で囲み多数の小部屋に区切った遊郭・料亭独特の間取で、客同士鉢合わせしないよう階段も複数ある。なんとなく奇妙な絵や巨岩や橋や部屋がある。陽明門の作りもあった。遊郭とはこのような内部飾りをしていたのか……。



帰りには、飛田新地の赤い提灯がずーと並ぶ間口を少しだけ見学する。・・・が目配せをしてくる。



⑤スーパーホテル梅田

肥後橋にある宿泊ホテルにチェックイン。解散。

10月26日(土):

ホテルロビーに5名集合。午前は、大阪キタの堺筋と御堂筋の間に明治にビジネス・商業地として発展した船場、北浜のまち歩き。

26日(土)から27日(日)に生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪2019(イケフェス大阪2019)が実施されているので、大阪のまちに息づく建物をたくさん見学できるようだ。良いタイミングでの大阪まち歩きが期待できそう。

⑥大同生命

まず大同生命本社の見学。広岡浅子と加島屋の関連展示が2階で実施されている。





ヴォーリズと一柳満喜子などの説明もある。

旧住友銀行本店の写真を撮って、土佐堀川にかかる淀屋橋の橋を渡り、中之島に向かう。日銀大阪支店前で残り2人と集合し、7名でのまち歩きが開始される。



⑦府立中之島図書館

大阪市役所本庁を左に見て、正面の4本のコリント式の柱とドームから重厚感を感じさせる府立中之島図書館の見学開始。住友家の寄付により建設されたという。建物が重要文化財に指定されている。



梅檀木橋の読み方を案内人は質問する。中央公会堂の外観を見る。2階の応接室の天井が素晴らし

いと案内人は説明。

解答（せんだん）



中之島は、堂島川と土佐堀川にはさまれた細長い島で、水運に恵まれ江戸時代は各藩の蔵屋敷が立ち並んでいたという。

⑧含水堂・華岡鹿城顕彰碑

別の案内人が、土佐堀川の対岸を指さしながら、河岸の活用が進められていると説明。

含水堂・花岡鹿城顕彰碑は、世界で初めて全身麻酔「通仙散」による乳癌摘出に成功した華岡青州の末弟の鹿城が、青洲の「春林軒」の分校として1816年中之島に医学塾「合水堂」を開設し、わが国医学の発展への大きな業績を残したというもの。



⑨大阪取引所・五代友厚像

難波橋を渡る。ここから土佐堀川の河岸活用の状況が良く分かる。



五代友厚像を見上げ、写真を撮る。北浜レトロ(旧桂龍産業)のビルを通り越しに眺める。



計 86 名の生徒を大阪慶應義塾は育成したことになるが、2 年足らずで閉校。



⑩新井ビル(旧報徳銀行大阪支店)

11 時近くになったので一休みと、旧報徳銀行大阪支店の一部を利用した GOKAN 五感北浜本館で喫茶休憩をする。銀行時代の雰囲気が残っている。



有名なお菓子のお店で、おにぎりの形をしたお米のカステラ五感まんまなどお土産を購入する人がいる。



その大阪慶應義塾跡の碑を見て、緒方洪庵適塾の周囲を見学。緒方洪庵の像もある。



ここも総合設計制度による公開空地を活用して、後方ビルがアクセスしやすくなっている。

1880 年 6 月 1 日に開園した木造の大阪市立愛珠幼稚園の入り口の門構えは立派。園の敷地は江戸時代の銅座の跡地で、現存する木造の幼稚園園舎としては日本最古という。



⑪緒方洪庵適塾

大阪出身の福沢諭吉が東京に出て来られない人々の意欲に応えるため、その第 1 号が明治 6 (1873) 年 11 月に開設した大阪慶應義塾でした。

⑫柴川ビルで昼食

当初予定を変更し、レトロなアステカ風の柴川ビルの地下で昼食。全員は入れないので、残り 3 名は近くのベトナムレストランに行く。昼食後に全員での記念写真を撮る。



中之島や船場が意外と戦災の破壊が少なかったとイケフェスの案内パンフに書かれていた。

午後は、心齋橋、道頓堀、難波、通天閣などのミナミで大阪の庶民の活気を楽しむ。

⑬慶沢園

2 台のタクシーで天王寺駅まで移動。「てんしば」の混雑を見ながら、慶沢園に向かう。「てんしば」は、2015 年にリニューアルオープンし、広大な芝生広場や飲食店が並び多くの人で賑わっている。

慶沢園は、純日本風の池泉回遊式庭園で、大正時代では大阪の豪商・住友家の本邸の庭園だった。



ゆっくりと見学し、あべのハルカスを背景に記念写真を撮る。



疲れた二人はここでホテルに戻り懇親会で再会することになる。

大阪市立美術館の前の階段を下って、天王寺動物園の入り口前から新世界の混雑の中、通天閣の入り口に着く。



⑭通天閣

大きなフグやタコ提灯の看板などを見学しながら、混雑の中を進んでいく。



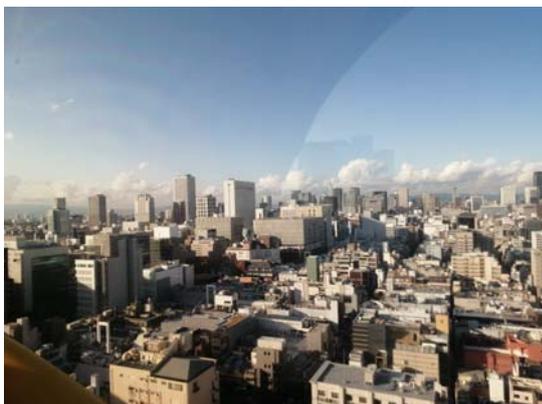
何と、入り口で列に並んでいると、ここはあと90分後で入れるよと言う。土曜で混雑する時間だ。1時間半も待つのはもったいないのでタクシー2台に分かれ、次の道頓堀に向かうことにする。

⑮道頓堀

道頓堀の川に沿って、ドンキーコングのゴンドラの方に向かう。



どうにか全員集合し、ゴンドラに乗り込む。77.4mの高さまで昇って行く。ここから眼下のビルの屋上のゴチャゴチャした雰囲気を見学。遠方に昨日訪問したプレミストタワーが見えたはずだが、見つけようとはしなかった。



⑯御堂筋の将来計画説明

道頓堀橋を右に曲がり、御堂筋沿いのベンチに座り説明者から御堂筋の将来ビジョンについての社会実験について説明を受ける。



長期目標として御堂筋完成100周年(2037年)をターゲットイヤーと設定し、人と多様なモビリティが安全に共存できる空間・しくみづくりなどとしている。途中経過に関心持って見ていきたい。

⑰たこ梅

さらに行くところもなく、疲れてきているので、大阪松竹座の前で懇親会場の道頓堀のおでん屋たこ梅に電話で確認する。



5時から開店というので、店の前で待つことにする。ホテルで休憩している二人に場所を連絡する。道頓堀を歩いてたこ梅に行く。





5時開店と同時に5人がカウンターに座り、好みのおでん（関東風）を頼み、ビールやお酒で懇親を始める。



イングランドとニュージーランドのラグビーが始まっているので、気になる。イングランドが前半勝っているという。

ホテル休憩の2名も到着し、東京に帰る1名と入れ替わりとなる。2時間経ち、7時過ぎでお店を出ることになる。

⑱スーパーホテル梅田

少し早めにホテルに着き、各自解散。

10月27日（日）：

本日は4名でのまち歩き。スーパーホテル梅田をチェックアウトして、地下鉄で大阪梅田にまず向かう。日曜日で、大阪駅周辺は混雑し始めている。次に、阪急で芦屋川に向かう。芦屋川駅から丘陵を昇って行く。



晴れてきたので暑い。ライト坂を上り、ヨドコウ迎賓館に着く。

⑲ヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅）

帝国ホテル建設のため来日していたフランク・ロイド・ライトにより、灘の酒造家・八代目山邑太左衛門氏の別邸として大正13年完成した4階建ての鉄筋コンクリート造の建物。



幾何学的な彫刻を施した大谷石、マホガニーの木組み装飾や葉をモチーフとした飾り銅板等を見学。





有機的建築 (organic architecture) だという。難しい。人にやさしい野菜と同じで、人にやさしい住宅だろう。

和室もある。屋上のバルコニーからは六甲の山並みや大阪湾を眺望できた。風もさわやかで気持ちよかった。



なお、現在は (株) 淀川製鋼所が所有しているようで、このような名前になっている。じっくりと見学。



⑩滴翠美術館

12 時近くなり、次をどうするかとなったが、折角なのでそばの滴翠美術館まで歩いて行く。芦屋川沿いに反対側の道を歩いて行くが、どうも道がなくなっている。住人に聞くと、ぐるーと遠回りで行けという。どうにかたどり着くことができた。



ここで一人は新幹線の時間もあり、見学せずに別れる。残り 3 名での見学となる。

滴翠美術館見学後、海よりの駅までタクシーで向かう。ここで 1 名は神戸へと別れる。最後の大阪の梅田の解散予定地に戻ったのは、2 名だけとなりました。

これで今回の建物見学を中心とした大阪のまち歩きの全行程が終わる。以上